

あ い さ つ

砂川市長 善岡 雅文



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には、穏やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、多くの皆様に市政全般に対するご意見をいただきながら、市政運営を進めることができました。市制施行60周年記念式典では皆様と一緒に祝いし、還暦を迎えた砂川市の歴史をしつかりと心に刻むことができましたことに厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、やはり9月に連続して発生した「台風・地震・停電」が大きな出来事として挙げられます。台風21号の暴風による倒木被害、翌日は砂川で震度4を記録した胆振東部地震、北海道全域で停電となるブラックアウトへと災いが続き、自主避難所を開き応急対策を行ったところでありますが、いま一度、災害対応の課題を整理し、すぐできることから対策を講じているところでもあります。

このような中、砂川市においては、子育て世帯をサポートする施策を昨年も継続し

て実施し、新たに1歳未満の乳児を持つ世帯に対し、おむつ無料クーポン券の配付、北海道子ども国「ふしぎの森」の利用時に小学生以下の児童がいる世帯へ無料クーポン券の配付、さらには、冬期間のみ実施していた、ふるさと活性化プラザ内の「屋内遊びひろば」を、1年中に渡って子どもたちの遊び場として確保するなど、安心して子育てがしやすいまち砂川に向けて確実に取り組みを行ったところであります。

本年は、「庁舎整備検討委員会」、「庁舎建設検討審議会」など、市民の皆様と情報を共有しながら進めてきた庁舎建設が、いよいよ8月には図書館南側周辺にくわが入り工事が開始される予定であり、これまでに描かれていたものが初めて形になる記念すべき年となります。

「安心して心豊かにいきいき輝くまち」を新たにめざす都市像と掲げ、2020年までの10か年を実施期間とした第6期総合計画も残りわずかとなりましたが、本年も「このまちに住みたい、住み続けたい」と思うことができるまちの実現に向け、引き続き市民の皆様が力強いご支援とご協力を賜りたいと存じます。

平成の元号も最後の年となり、歴史的に大きな節目を迎える2019年ですが、市民の皆様にとって災いが無くご健勝で幸多き年となるよう心からお祈り申し上げます。頭のご挨拶といたします。

新年のご

砂川市議会議長 飯澤 明彦



新年明けましておめでとございます。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことと議員一同心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に対するご厚情とご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、砂川市が市制施行60周年を迎える中、4月には、地域密着型特別養護老人ホーム福寿園の供用が開始されるなど、明るい話題でスタートしたと感じるところですが、全国的には自然災害が多発し、本市におきましても、9月5日には台風21号の暴風が襲来し、6日には胆振東部地震が発生、北海道全体がブラックアウトになる、かつてない災害に襲われる波乱の1年でありました。

そのような中ではありますが、本市においては、少子高齢化や人口減少社会、たび重なる自然災害に対応するため、地域の特色を活かした産業の振興、雇用の確保などの地方創生を進める、防災対策にも力を注ぐなど、着実に施策を展開し、まちに賑わ

いを取り戻し、市民の皆様が安心して、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりに取り組んで参りました。

また、新庁舎建設につきましましては、砂川市庁舎建設基本設計書が策定され、いよいよ具体的な形も見え始めてきたところであります。

昨年の市議会を振り返りますと、議会改革において市民に開かれた議会を目指して議論を深め、全員一致で議員定数1名減を決定したほか、一昨年初めて行った議会報告会につきましては、懇談形式に改め、市民との対話に重点を置いて実施するなど、一定の成果を残すことができたものと考え、議会改革特別委員会としては一区切りを迎えますが、議会改革に終わりはなく、これからも議論を進めて参ります。

今年には統一地方選挙が実施され、砂川市議会も5月には新しい顔ぶれで発足いたします。私たち市議会といたしましても、この困難な時代における本市の将来を見据え、市政運営に奮励して参る所存であります。

どうか本年も一層のご指導とご協力を賜りますようお願いを申し上げますとともに、この1年が皆様にとりまして幸せ多い年でありませうお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



本年もよろしく

お願い申し上げます

平成31年 元日

砂川市議会議員一同